

研究計画書

ゼミ名	林 健太 ゼミⅢ	チーム名	CRYSTAL GEYSER
タイトル	ナイトタイムエコノミーで神戸に外国人観光客は呼べるのか？		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>【研究の背景】</p> <p>総務省統計局は、2008 年が、日本の人口が継続的に減少する人口減少社会「元年」にあたりと発表した。その一方で、日本を訪れる人の数は増加している。日本政府観光局（JNTO）によると、2012 年は 1,973 万人だった訪日外国人の数は 2018 年には 3,120 万人にまで増加した。中でも 2014 年 - 2015 年の伸び代は 613 万人の増加という大きなものであった。日本総人口が減少する中、経済の発展に必要な消費を支えると期待されるのが、これら訪日外国人である。年々増す外国人観光客 1 人当たりの消費額をどれだけ伸ばし、リピーターを作れるかが課題と言えよう。</p> <p>しかし、私たちが日頃暮らしている神戸はどうだろうか。同じ関西でも京都や大阪に比べ外国人観光客が少ないように感じる。USJ や清水寺のような観光名所がない神戸にどのような方法で外国人観光客を呼ぶのか。「観光名所」ではなく「観光時間」を作る、夜間という新たな時間市場を開拓するナイトタイムエコノミーに注目した。</p> <p>【研究内容と期待される成果】</p> <p>本研究の目的は、夜の神戸に外国人観光客を呼び込むことに、意義があるかを検証することである。まず、そこに需要はあるのか。昼間に外国人観光客の多い京都や大阪で外国人観光客にアンケートを実施し、実態を調査する。次に供給はできるのか。神戸に住む人々にナイトタイムエコノミーについての考えを聞く。外国人観光客と現地住民の双方の意見を聞くことで、ナイトタイムエコノミーに求められているものや代わりとなるものが明らかになると考える。可能であれば、自治体職員や企業関係者にもインタビューを行い、これらをふまえて今後の神戸の観光の課題と解決策を示す。</p>		